

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 45

2020年8月発行

通常展+企画展

明治の疫病・出版物+ちよつと植松絵図

特集

うえまつぶ3でまちあるき

疫病除御守

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十九)」



展示のご案内

八尾市指定文化財 やすなかしんでんかいしょあと きゅううえだけじゅうたく

安中新田会所跡 旧植田家住宅

【通常展】

大和川付替えと植田家の収蔵品

2020年

- 木綿資料編 -

9月16日(水)～10月21日(水)

河内平野の変遷、大和川付替えの歴史、八尾と旧植田家の出来事について年表形式のパネルで分かりやすく展示しています。また、植田家に伝わる収蔵品の一部を紹介します。

【特別・企画展】

旧辻田家寄贈襖絵初公開(仮)

10月24日(土)～12月25日(水)

現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、各種コロナ対策を実施しています。ご協力をお願いするとともに、今後の状況により、予定は変更となる場合があります。ご了承ください。

2020年8月31日

休館日 = 火曜日、祝日の翌日、年末年始

開館時間 = 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【観覧料】一般250円、高校・大学120円、中学生以下は無料

お問い合わせ TEL/FAX 072-992-5311



JR「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品:木綿資料編」9/16(水)～10/21(水)

「大和川付替えの歴史」と「旧植田家住宅の変遷」をパネルで展示。所蔵の木綿資料も一部展示。

特別・企画展「旧辻田家寄贈襖絵初公開」2020年10/24(土)～12/25(水)

2018年八尾市に寄贈された旧辻田家の襖絵を中心とした資料を展示。 ※11/25～後期

※休館日は P15 をご覧ください

Contents

- 4 通常展 + 企画展
明治の疫病・出版物 + ちょっと植松絵図
- 6 うえまっぷ、ひと足お先に ぶらりたび。
- 7 教育コラボ演習
実習をふりかえって…
- 8 特集
うえまっぷ3でまちあるき
- 10 四会所だより(25) 加賀屋新田会所
- 11 日日植田家住宅 第2日:コロナの時代?
- 12 木綿時々なにわの伝統野菜栽培日記
- 13 植ちょぴ(冷やし旧家・縮小版ほか)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十九)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真



ギャラリーにて
バックナンバー
配架中※

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからもダウンロードできます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

《疫病除け御守り》(旧植田家住宅蔵書挟み込み)

疫病(コレラ)が流行した明治期に出版された『まじない百ヶ条』の中に、葉の様に挟み込まれていた小さな「疫病除御守」と書かれた紙。通常展+企画展「明治の疫病・出版物+ちょっと植松絵図」は4・5頁を参照。





堤跡を立体で表わしたパネル (提供:まち研)



JR八尾駅周辺の高低差を示した地形模型



ちょっと植松絵図コーナー

2020年

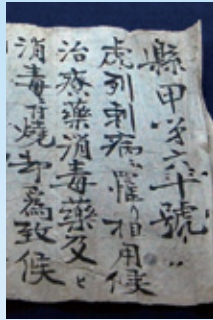
【通常展】+【企画展】

5月21日(水)~7月19日(日)

大和川付替えと植田家の収蔵品 ~明治の疫病・出版物~*ちょっと植松絵図



あの布製マスクも展示!?(デザイン2種類)



うえまつぶ3 (令和2年(2020)3月発行)



安中新田略絵図 (天保11年(1840)4月)

防疫
虎列刺…

防疫

換気

外出制限



明治時代の出版物と「疫病除御守」



明治時代に出された「達」 「布令」とその写し

大和川付替えと植田家の收藏品

「明治の疫病・出版物+ちよつと植松絵図」

長期にわたる臨時休館を経て、再開後の6月からは急きよ予定を変更し、中止となつた通常展「大和川付替えと植田家の收藏品」を併せた展示を7月19日まで開催。小規模な展示室のため、3密(密集・密接・密室)回避などのコロナ対策を講じながら、内容も旧植田家所蔵の書籍・古文書類から約140年前の疫病(主にコレラ)に関する資料と、植松地域に関する古絵図や現代の地図などを展示した。



3密回避などのコロナ対策を講じた展示室

【明治の出版物と疫病】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により疫病の歴史や防疫について世の中の関心が一気に高まったが、日本では明治時代に「コレラ」による伝染病が大流行し、今まさに私たちが経験している状況と同じようなことが既にあつたことを資料(記録)が伝えている。

「江戸時代の「虎列刺」(コレラとも)の流行、明治時代に「天然痘」の予防が進む中、再びコレラが最大級に流行した明治12年の『堺県(現在の大阪府・奈良県・布令)には、「虎列刺」の予防と心得」として、摂生を第一とし、病の流行する町村への「不要不急」の外出を控えるように呼びかけたり、人々に思いがけない死をもたらす現状において、これをよそ事にして(軽んじて)、でたらめな情報を流す者や、自分は大丈夫だとしてついには病にかかる者が多いと記す。また、人との接触を避け、換気し、清潔にすることも、今日のコロナ(感染症)対策と同様に言われている。

当時出版された家庭に役立つ知識や健康法などを紹介した書物やまじない本においても、医学的な根拠はさておき、「ウィズ・コレラ」な一面が見られ、感染症と長期に

向き合っていた当時の人々の姿が想像できる。ちなみに、この旧植田家所蔵の一冊の本の間には「アマビエ」でも「アマビコ」でも「ヨゲンノトリ」でもない、「疫病除御守」とだけ書かれた一片の小さな紙切れが挟み込まれていた。(表紙絵参照)

【ちよつと植松絵図】

通常展「大和川付替え」と企画展「古文書に見る植松」の要素として、いつものパネル展示に加え、今年3月に発行した植松のまちを歩いて楽しむ地図「うえまつぷ3」を、同じ場所を描いた約200年以上前(江戸時代)の小さな新田絵図とともに展示した。ステイホームで不要不急の外出自粛が進む中、こうした地図を活用すれば外出気分も味わえることから、当時のアナログ時代にとつては貴重な情報源となつただろう。

また今回は特別に八尾すまいまちづくり研究会(まち研)の作成した、旧大和川堤跡を立体的に表わしたオリジナル展示パネルもお借りし、旧植田家住宅の位置する植松周辺のまちなみを俯瞰した。有事ならではの特別な展示となつたが、来館者数は予想通りであつた。

(旧植田家住宅 学芸員 安藤亮)

うえまっぷ ひと足お先に ぶらりたび。

こんにちは、大阪教育大学から実習で旧植田家住宅に来させていただいている者です！今回は「うえまっぷ」を極秘ルートで早く入手できましたので、ひと足お先に歩かせていただきました。素敵な見どころがたくさんでしたので、ネタバレにならない範囲で少しだけレポートいたします！

私たちが歩いたのは「植松・太子堂コース」なのですが、歩くだけでも1時間半ほどかかりました。実際に歩かれる際はこまめな休憩、水分補給を忘れず安全に気をつけてお楽しみください！！



旧奈良街道、植松の東西の端には昔から目印として石灯籠が置かれていました。こちらの写真の石灯籠は西に置かれているもので、「うえまっぷ」だと⑬番の場所にあります。

東の石灯籠は龍華小学校ができたのを境に道路の関係で撤去され、今では旧植田家住宅の庭に置かれています。

(新野 飛佑真)

JR八尾駅から南の駐輪場に段差があります。この段差は、旧大和川の堤跡とみられます。新田開発の際に堤の土が利用されたため、現在の堤跡の高さはおおよそ、“うえまっぷ二枚強”の高さになっています。堤跡地は、他にも何箇所か黄色で示されているので是非巡ってみてください。普段見落としがちな日常の何気ない高低差にも歴史を感じるができるかもしれません。

(島田 真生子)



うえまっぷの⑪番の大聖勝軍寺についてです。左の画像を見てください。猫です！！ここにはとてつもなく人懐っこい猫がいます。しかも一匹だけではありません。なんということでしょう。猫好きの私からしたら天国のような場所です…。うえまっぷの植松・太子堂コースのちょうど折り返し地点あたりにこの大聖勝軍寺があります。猫好きの方はぜひ！！

(玉井 優樹)

実習をふりかえって...

今回、活動の中で小学生の見学案内のガイドサポートをさせていただきました。見学に来た小学生は初めて生で見る昔の道具などに興味津々で年代や使い方などたくさんの質問をしてくれたので毎回ドキドキしながら挑んでいました。私自身も回を追う毎に植田家や昔の暮らしについて理解を深める事が出来ました。みなさんも、旧植田家に来て、肌で昔の暮らしを感じてみて下さい。 島田 真生子



小学校からの団体見学をサポート



お雛さんの組み立て作業風景

自分が男の子だったということもあり、今までひな祭りやお雛さんを組み立てたりといったことがあまり身近なものではありませんでした。今回旧植田家住宅で初めて立派なお雛さんを組み立てました。お雛さんの取り扱いの難しさや知らなかった知識、色々と知ることができました。また訪れた子供たちも喜んで見てくれていたようで、すごく嬉しかったです。毎年旧植田家住宅ではひな祭りの時期に展示しているそうなのでぜひ皆さんに見て欲しいです。 新野 飛佑真

旧植田家住宅では展示品を定期的に替えています。

実際に私たちも手伝わせていただいたのですが、時にはとても高そうな絵を運ぶこともあり、作品を持つ手が震えました。笑

ですが普段生活をしていてこういった作品に触れられる機会というのはそうそうなく、大変貴重な経験になりました。時期によっては展示品が教科書の物語に出てきた昔の道具になったりもするので、子供たちはよりその物語を身近に感じられるだろうなと思いました。

子どもたちはもちろんですが、僕たちでも展示を見てとても楽しめたので大人の方たちにもたくさん来ていただきたいです。 玉井 優樹



展示替え中の展示室の様子

～実習全体を振り返って～

高級そうな絵を運んだり、立派なおひな様を組み立てたりと緊張することもたくさんありましたが、それらもすべてひっくるめて楽しかったです。今回の実習で、普通に生活していたら絶対に知れない、見れない、触れないようなもの・ことを五感を通してたくさん学べました。コロナ禍で一時は活動休止の事態もありましたが、この活動を通じて様々な人と出会う事ができました。旧植田家住宅を地域の方をはじめ多くの方が大切に守り維持し、現在に繋いでいらっしやるかがよく分かりました。職員の皆さんには本当に感謝しています。すてきな時間をどうもありがとうございました。 実習生一同



うえまっぷ3の特徴

- ・旧太和川の範囲と堤の高低差が分かる。
- ・3つのコースで3倍楽しめる！
- ・寺社仏閣から銭湯、旧跡の場所を紹介。
- ・ちょっと昔の風景写真も掲載。

旧植田家住宅にて配架中(無料)

●お問い合わせ：072-992-5311
(安中新田会所跡 旧植田家住宅)

うえまっぷ3で まちあるき

大阪府八尾市には古代から現代まで、様々な歴史や文化があちらこちらに遺されています。旧植田家住宅のある植松町は、江戸時代の大和川付替え後のまちなみやその遷り変わりを感じることができます。

そんな植松のまちの様子を記録した「のんびり植松ぶらっとまっぷ」（うえまっぷ1）の発行から10年が経ち、2020年3月「歩いてたのしむ植松ぶらっとまっぷ」（うえまっぷ3）を発行しました。今回のテーマは、ズバリ「歩いて楽しめる歴史まっぷ」。

旧大和川である長瀬川「右岸コース」・「左岸コース」と寺社仏閣や街道を辿る「植松・太子堂コース」の3つのルートを設定。裏面には各所の解説が貴重な古写真とともに掲載されています。

コロナ禍で遠出やイベントの自粛を余儀なくされている現在、「うえまっぷ3」を手にとり、自宅で見てもよし、近場のまちあるきをお楽しみください。

あれから10年。
まちの様子は…



うえまっぷ1(2009年) ※在庫僅少



四会所だより (25)

扁額「古見堂」について



加賀屋新田会所跡（加賀屋緑地）は、長屋門から入り、次の冠木門をくぐり進んでいきます。この冠木門の上には「古見堂」と書かれた板の扁額がかかっています。京都の相国寺「臨濟宗相国寺派大本山」第百三十二代官長有馬頼底師の筆による書が蔵に飾られています。それを板に写したものです。

有馬頼底師は京都仏教界の重鎮で、文筆に優れ、数々の著書があります。昭和八年生まれですので、戦後に書かれたものを頂いたものと思われます。

古見堂とは、論語の解釈では「子曰、温レ故而知レ新。可以為レ師矣。」から出た言葉です。「故（ふる）きを温（たず）ね、新しきを知る」で、前に学んだこと、歴史を知り、そこから新しい知恵を得るという意味。今を知って昔を知らぬ者を

「盲瞽」。その逆を「陸沈」といいます。いずれも危ないことのたとえです。

「古見」とは、禅の世界ではもつと広い解釈になってまいります。自分の命が、今ここに存在している不思議さ。遠い遠い過去から、また広大な世界宇宙から延々と繋がってきて、しかもその一つでも欠けてしまえば自分は存在しないだろう不思議さから、どんなに命が尊いものかをよく考えなさい、との教えだと思えます。

もつと身近な事では、私たちがこの町で生活しているのも過去を振り返ってみると、一七〇四年に大和川が造られたこと、それ以前の事、そして新田開発、大和川の氾濫、その他いろいろな出来事があつて、今の私たちが暮らしている。この歴史を知っていただくこと（大事）が将来の発展の構想へとつながっていくことだと思えます。

（住之江のまち案内ボランティアガイドの会

桜井謙次



かぶきもん
冠木門

京都 大徳寺から拝領の瓦を模した、アーチ型の瓦で大胆に造形して復元されたもの。京都 相国寺の有馬頼底管長の筆による「古見堂」の額が掲げられています。

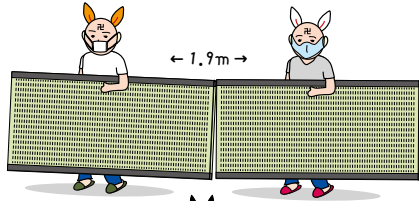


扁額「古見堂」有馬頼底筆（土蔵で展示）

雑記帳 旧植田家住宅

— 日常から日用まで —

第2日：コロナの時代？



Social distance 

【新しい生活様式】

「3密」「ステイホーム」「ソーシャルディスタンス」「ウィズコロナ」「アフターコロナ」「アベノマスク」…など、この数カ月の間に、今まで口にしなかったような言葉が当たり前の日常会話で使われるようになり、それまでの確立された生活様式(あったのかは疑問)を見直して「新しい生活様式」が求められる時局になりました。旧植田家住宅の利用においても変わったことを、少しだけまとめてみました。

【新型コロナ感染拡大防止対策】

・3月3日～5月20日休館(現在は再開)
小中学校の全国一斉休校要請と「緊急事態宣言」に合わせた臨時休館。再開後、八尾市では9月30日までのイベント中止を決定。今後も様子をうかがいながら？

・基本セット(新利用様式)

入館時のマスク着用・手の消毒・連絡先の確認(大阪コロナ追跡システムの併用)、体調不良者の入館お断りなどお願いベース



オンライン見学 (web撮影中)



基本セット(受付)

のものから、人数・時間制限、換気などの三密回避、消毒作業、受付対応・展示方法の試行錯誤に至るまで、日々実行中。

〈中止になったイベント〉

- ・畑活用計画1 (5月)
- ・ポランティアガイド養成講座
- ・ぶらりまちあるき (6月)
- ・講座1「植松のむかし話」
- ・こども昔くらし体験 (7月)
- ・土蔵でクラフト (8月)
- ・夏のお茶会
- ・かまどでご飯炊き体験 (9月)
- ・講座2「幻の銭湯『龍華湯』」
- ・かまどで月見団子、観月会 (10月)

【新しい取り組み】

世間ではオンラインを活用した様々な取り組みがされる中、旧植田家住宅では今更ながらブログとツイッター、フェイスブックの更新回数が増えました。先日は同市しおんじやま古墳学習館主催のオンライン見学会もさせていただき、新しい生活様式の一端に触れました。さて、今後は一体何ができるでしょうか。

【畑活用計画、始動…のはずが】

フォーマットはそのままで、書き手と内容が替わり、久々に「なにわの伝統野菜栽培日記」です。ほとんど伝統野菜については書きません。

連作障害が続いた畑を休ませるため、今年度は「畑そのもの」を活用したイベント、その名も「畑活用計画（はたけかつようプロジェクト）」を企画し、5月からスタート。…のはずでしたが、コロナの影響で植田家住宅も臨時休館になり、その後もすべてのイベントが9月末まで中止になりました。

【木綿すくすく、あとニヤニヤ】

気を取り直し、今年スタツフだけで畑を使った木綿栽培を行ない、「定点観測」をすることにしました。5月10日に畝作りと種をまき、8月現在まで毎日欠かさず（休館日を除く）同じ位置から写真を撮り続けています。収穫が終わるまで続けて、最終的に写真をつなげて1本の動画にしてニヤニヤする予定です。（需要があれば配信予定）



2020.5.10 種まき



2020.6.10 支柱立て



2020.8.10 開花



2020.7.10 すくすく

木綿 時々

なにわの伝統野菜栽培日記

2020 (No.44)



「忘れんといてやー」



黒門越瓜（プランター）

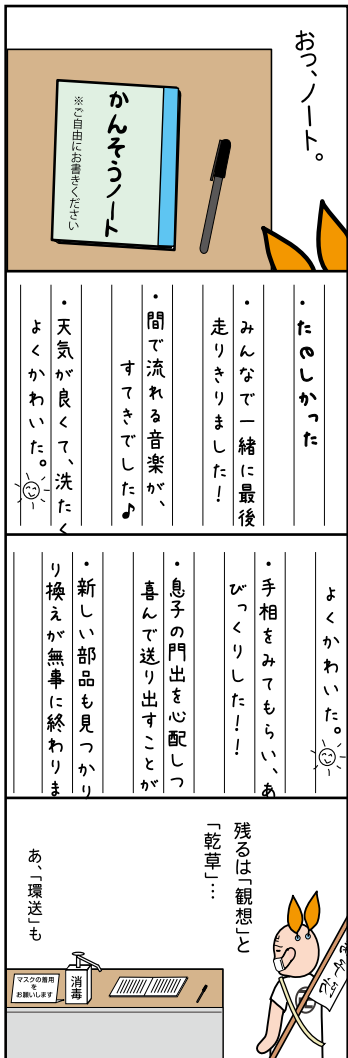


勝間南瓜（プランター）

【忘れんといてやー（ユニゾン）】
現在プランターでは勝間南瓜と黒門越瓜の栽培を理事長が毎日続けています。今年は梅雨も長く気候が不安定だったため収穫量は落ちましたが、何とか種の継承はできそうです。入館者の激減やイベントの中止もあり、ひっそりと育つ野菜たちが「忘れんといてやー」と語りかけてきます。よく聞くと理事長の声でした。

マンジーくん

安富士 暁



【植田家住宅の・ちようどいい・トピックス】

植ちよ。ピ。(ックス)

◆終了したイベント◆

・「冷やし旧家、はじめました・縮小版」

≪2020年7月11日(土)〜9月13日(日)≫

例年、夏休みに入るとにぎわう納涼企画「冷やし旧家、はじめました」も、今年はコロナの影響によって一部イベントを中止し、縮小版として実施。風通しの良い簾戸への入替え(展示)と冷たいラムネの販売だけを行ない、子どもたちが楽しみにしている「井戸水に足つけるやつ」(井戸水で足水体験)や「となりのトトロ」で観たことあるやつ(蚊帳の体験展示)の実施を見送った。例年通り、足拭き用のタオルを持参

して訪れる子ども们的姿もあったが、やはり全体として来館者の数は少なく、感染症予防対策としては正解でも、少し残念な夏となった。



ビー玉ごまのおまけが付いたラムネ

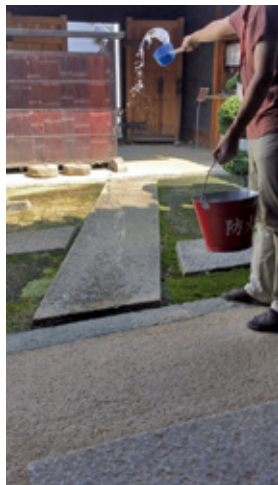
・「冷やし旧家&打ち水大作戦」

≪2020年8月1日(土)≫

納涼企画「冷やし旧家、はじめました・縮小版」では、昔ながらの方法で夏を涼しく過ごすという趣旨から、人を集めずとも「いつでも誰でも自宅で簡単にできる納涼」として「打ち水」を今回初めてSNS限定で行なった。打ち水で気温は下がるのか、その実験も兼ねて参加したのが「打ち水大作戦2020」(打ち水大作戦本部主催)。夏のチャレンジと題して毎年行な

われ、WEBサイトから参加表明をすると、あとは当日(8/1)打ち水を行ない、「#打ち水大作戦」でSNSでシェアするだけというもの。全国で500人以上が参加表明を行なった。

1日だけの実施だったため、結果、気温の変化は殆どみられなかったが、行為そのものによって、涼しい夏の記憶がよみがえった。また風がとても心地よく感じられた。



朝夕、正面玄関と裏庭で打ち水

◆告知◆

・「ギャラリー展示2020」作品募集

≪2020年10月25日(日)〜12月25日(金)≫

来年1月に開催する「ギャラリー展示2020」の作品(写真も可)を右記期間に募集。テーマは「新田大和川と新田会所周辺の風景」。応募についての詳細は旧植田家住宅へお問い合わせをいただくか、10月初旬ホームページに掲載予定。なお今年はコロナの影響を考慮し、募集・開催期間の変更あるいは中止の場合もあり。

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (三十九)

文・伊東健

一九六四(昭和三十九)年二月十九日に逝去した尾崎士郎の全集が講談社から刊行されたのは、翌年十月からでした。全十二巻の中の第六巻解説で今東光は語ります。

(前略)川端康成や僕等がまだ「新思潮」を出す構想さえ持たなかった時代、尾崎が新聞小説に当選して颯爽と出現したのは驚きだった。その彼が突如として支那へ旅立って「逃避行」をひっそりさせて来たが、その作品は文壇では思ったほど評判にはならなかったが、少くとも僕は彼を一偉材として認められた。もう一人あった。佐々木味津三だった。従ってこの三人は何時となく知己として交るようになったのだ。(中略)

僕が、はからずも菊池寛氏と袂を分った時、誰よりも僕を励ましてくれたのは尾崎その人だった。僕はその後、仏門に入り比叡山に登って修行三昧の生活に入ったが、尾崎はそれを釈迦の入山になぞらえて、他日、出山する時に期待すると言ってくれたものだ。(中略)

(尾崎士郎全集第一巻解説「昭和四十一(一九六六)年五月二十五日講談社発行より

尾崎士郎は絶筆となった自伝的随筆「小説四十六年」の中で、当時の状況を書き残しています。全集最終巻に収録されているので、引用します。

菊池寛の勢力が、ジャーナリズムを圧倒して、文壇の大御所という言葉が、ひとりでの出来上がったのもそのころである。(中略)

「文芸時代」のころから、菊池寛に愛され、私とはとくに親しかった今東光が「ユダの言葉」という短文を発表すると同時に、「文芸春秋」と絶縁したことや、横光利一が、直木の採点表に憤激して、別の意味で、菊池寛との関係を絶つ決意を明らかにした文章を当時の読売新聞文芸部長である清水弥太郎に手渡ししてから、数時間の後、川端康成の忠告に従って急に思い止まり、同じ日の夜、円タクに乗って、すでに印刷中だった原稿を取り返しにいったというエピソードは、当時の文学者が、いかに情熱的であり、純粹な態度で生活を押し切っていたかということを示すに足るものであろう。

横光の問題を知っている人はほとんどあるまい。これは事前に解消されてしまったのでそのままになっているが、今東光は、このことがキッカケとなり、文壇から脱落して比叡山にかくれ、二十年近い歳月を臥薪嘗胆みそすり坊主となって過ごした。彼は当時の同輩の中で、もっとも花々しく世の中へ出た男で、二三年前に「朝日新聞」にも「毎日新聞」(当時の東京日日新聞)にも長編を連載していた。(中略)

二十年にわたる雌伏が、今日の彼をつくりあげたことはいうまでもないとしても、しかし、一敗地にまみれて孤劍飄然として比叡山にのぼった彼のうしろ姿は、私の心に少なからず悲劇的な哀傷を唆^{そそ}った。

(尾崎士郎全集第十一巻所収「小説四十六年」より
昭和四十一(一九六六)年十一月二十五日講談社発行)

川端康成が誘っても文藝春秋の同人になることを固辞したという尾崎士郎は、菊池寛と距離を置いた作家の一人でした。その尾崎と佐々木味津三は、今東光は必ず盛り返してくると語り合ったといいますが、この三人は純文学から大衆文学に移って人気作家となった点で共通します。

特に、東光と尾崎は、東光が下戸、尾崎が酒客という違いはあれど、同じ年、野毛小学校同窓、川端康成、宇野千代、任侠人情作品、悪太郎、雌伏期間、徳川家康ぎらい、直腸癌闘病など、共通項のほうが多いくらいでした。東光にはいろんな友情の形があったのだとつくづく思い知らされます。

旧植田家住宅のご案内

【2020年9月～12月】

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2020年

◎9月16日(水)～10月21日(水)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品
 ～木綿資料編～」

◎10月24日(土)～12月25日(水)

特別・企画展示「旧辻田家寄贈襖絵初公開」

11/23(月)まで前期、11/25(水)から後期(襖絵裏面)

・11/15(日)13:30～ 特別・企画展関連講演会

展示、イベント等のお知らせは
 ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

9月 (中止) 防災!かまどでご飯炊き体験
 (中止) かまどで月見団子作り
 (中止) 旧家で観月会

※9月末まで、原則
 イベントは全て中止

10月 ★10/24(土)～12/25(水) ギャラリー展「航空写真にみる八尾」

11月 ★11/1(日)～29(日) 旧家で記念撮影～七五三～

14日(土) 植松灯籠の日(夜間開籠) ※11/14(土)・15(日)は
 「関西文化の日」(入館無料)

12月 (中止) 旧家で食事会
 (中止) こども昔くらし体験(冬)
 (中止) おもちつき大会

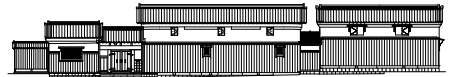
今後もコロナ対策(マスク着用・3密回避・人数制限など)実施につき、
 ご協力よろしくお願いします。

※予定は変更となる場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日



9 September

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10 October

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11 November

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12 December

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【交通案内】



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談(ご予約)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

編集日記

「緊急事態宣言」が発令された前号編集の中からちょうど四カ月が経過。お盆を迎える現在、新型コロナウイルスの活動は収まるどころか、寧ろ人間以上に活発化し、経済活動に影響を及ぼしています。幸い臨時休館には至ってませんが予断を許さない状況に変わりがあります。▼余談ですが、畑の木綿に「さく」(綿の実)がつき始めました。本誌の発行後に白い綿が吹くと予想されます。コロナ禍にあっても四季は巡っています。暑。

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

